

まじい！ 倫理号です。私は日々の実践の中で、小学へ毎月初めに挨拶実習へ出張して。子供達が挨拶に上手になり何人かと思いつくまで。6年になり、お手本と存する挨拶実践に。度々来よう存気がします。大きな声で「おはようございます」と、私も願っています。

挨拶の見本は社長が示す

幸也 鶴が 亦 鳥



え・古屋智子

活路は「いい」

な かなか業績が上向かない。いわゆる「頭打ち」で、今

後伸びていく兆しがない。経営状態は安定していても、将来への漠然とした不安を持っている。

このような時、どこに活路を見いだすのか。その道は、小さなことにあります。当たり前のような小さなことをコツコツと続けて、実践を積み重ねていくことが大切

です。その小さなこととは、例えば、「真心を込めて先手の挨拶をする」「呼ばれたら間髪入れずに『ハイ』と返事をする」「使った物はきちんと後始末をする」といったようなことです。一見、当たり前に見えることを徹底して実践すること、やがて大きな力を発揮する

のです。ある地方で運送業を営んでいるEさんは、従業員の挨拶の仕方が気になって仕方ありません。たとえば、「おはようございます」は「おざーす！」、「ありがとうござい

ました」は「あざしたー！」といった具合です。体力が物を言う仕事柄、採用する従業員は、いわゆる体育会系の部活動をしていた人がほとんどです。「部活の時はそれで良いが、もう社会人なんだから、挨拶の仕方を考えなさい」といくら注意しても、長年の挨拶の習慣はなかなか改まりません。

（元気があるから、まあいいか）と、心の中で妥協していたEさんでした。

ある日の研修会で「挨拶の実践で会社が変わった」という社長の体験談を聞く機会がありました。（たかが挨拶くらいで……）と思いつつも、Eさんは、その体験談に、どこか引き込まれるものを感じました。

研修会が終わった後、講師に従業員の挨拶の仕方について相談したEさん。その際、「Eさん自身はどのような挨拶をしていますか？」と問われ、ハッと我が身を振り返りました。朝、従業員が自分

分に挨拶してくると、「オーッ！」と返していたのです。「挨拶のポイントは、真心を込めて、先手で挨拶をすることです。社長から先に、正しい挨拶のお手本を示してください」と、講師にアドバイスを受けました。

翌日、Eさんは、照れくさい思いを振り切るように、「おはようございませす！」と元気に挨拶しました。従業員は最初、驚いた様子でしたが、時の経過につれて、「おはようございませす！」と、爽やかな挨拶が返ってくるようになりました。

やがて半年が過ぎる頃には、その従業員の挨拶が、評判を呼ぶようになりました。「荷物を頼むならE運送に」と声がかかるようになります。以前と比べて、配送の依頼が二十五パーセントほど増えたとい

います。その変化に、Eさんは「たかが挨拶、されど挨拶。毎日の小さな積み重ねが、大きな変化をもたらすのですね」と、挨拶の威力を痛感しています。

純粹倫理の学びは、頭で理解して終わりではなく、実践することで、心に意義があるのです。